



東京秋工委会会報

KANASA

金砂

VOL.4



東京秋工委会

秋田県立秋田工業高等学校同窓会 東京支部

校歌

校歌

一、太平山の凜たる勇姿

清河旭の淀まぬ心

勤勞の精 質実の徳

金砂健児の指さす所

希望の光 世界を輝す

二、物皆凍る寒風おろし

身を焼く炎暑何かはあらん

剛健の意気 不断の努力

金砂健児の勢い見よと

黒煙回毎 天へと沖す

三、進みて止まぬ科学の力

我が身に体し工業界の

未来の使命肩にと担う

金砂健児が御国に誓う

忠誠これぞ 不滅の力



秋工正門

ご挨拶



東京秋工会会長 澤木 誠一 (昭26 電気科卒)
澤木萬國特許事務所 所長弁理士

皆様益々お元気にてご活躍のことと思います。

今年は本部同窓会には出席することができませんでしたが、6月末に母校に行って参りました。その節は同窓会本部及びポプラ会の皆様色々お世話になりました。この紙面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

東京秋工会の皆様のご活躍は新聞その他で色々報道されています。ご承知のことと思いますが今年の春には同窓の東京オリンピック金メダリストである遠藤幸雄さん(30E)がスポーツ進行の功績により、紫綬褒章を受賞されました。秋田工業のイメージアップのためにも誠に喜ばしいことです。プロ野球では落合博満さん(47A)が頑張っております。

今年も多くの後輩が関東地区に就職されています。なるべくその全部の方に総会案内の連絡ができるよう努力いたしておりますが、身近にそういった方たちがいらっしゃいましたら、東京秋工会の総会へ出席いただくよう声をかけていただきたく思います。

さて、私は今年の4月1日に東京地区に現在45ある秋田県高等学校同窓会の連合会「秋高連」の会長に就任致しました。この秋高連は、東京秋工会前会長の谷藤正三さんが発起人の一人となって、5年の準備期間を経て設立されたもので、今年で設立11年目を迎えております。7月17日秋田県知事を始め多数のご来賓出席のもと、約300人の秋高連全体総会をプリンスホテルで開催いたしました。

私はこの全体総会での挨拶で、聖徳太子の「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗とせよ」との

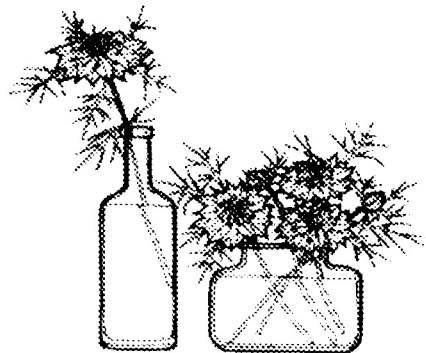
御言葉を噛みしめて会の運営に当たりたいとの決意を述べましたが、東京秋工会の皆様もぜひ「和」を大切にして東京秋工会の発展に寄与して下さることを念願しております。

今後色々と皆様のお力をお借りすることが多くなるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

在京の各同窓会はそれぞれ運営費の捻出に苦心しております。東京秋工会では幸いにして会報「金砂」に皆様から沢山の広告等によるご援助を戴いております。それを運営費の一部とさせていただいておりますが、そろそろ新しい名簿や同窓会旗等の作成を考えておりますので、より多く会員の皆様の会費の納入を心からお願いする次第です。

なお私は現在、秋田県のAターンアドバイザーに任命されておりますが、この制度は首都圏に就職した人を対象に、事情があつて秋田に帰りた場合などに無料で就職を世話する制度です。

ご利用を希望される方は TEL : 03-3213-7788
「Aターンプラザ秋田」(有楽町交通会館内)にご連絡ください。



会務・会計報告

●会務報告●

平成7年10月1日～平成8年9月30日

- | | | |
|------|--------|--------------------------------|
| 平成7年 | 10月20日 | *幹事会／於新橋しおり |
| | 11月10日 | *第8回東京秋工ゴルフ会コンペ／於龍ヶ崎カントリー倶楽部 |
| | 13日 | *幹事会／於新橋しおり |
| | 17日 | *東京秋工会総会／於東京プリンスホテル |
| 12月 | 1日 | *秋高連忘年会／澤木会長他有志出席 |
| | 14日 | *秋田市東京事務所忘年会／澤木会長出席 |
| | 22日 | *幹事会／於澤木事務所 |
| 平成8年 | 1月11日 | *秋田市長との懇談会／澤木会長他有志出席 |
| | 2月16日 | *秋高連役員会／澤木会長出席 |
| | 18日 | *秋田県人会新年会／澤木会長出席 |
| | 3月28日 | *秋高連委員会／澤木会長出席 |
| | 4月14日 | *秋田県人会総会／澤木会長出席 |
| | 20日 | *秋高連役員会／澤木会長出席 |
| | 5月10日 | *けやき会(在京秋田市出身者の会)運営委員会／澤木会長他出席 |
| | 31日 | *秋高連役員会／澤木会長出席 |
| 6月 | 1日 | *秋工東海支部同窓会総会／笹渕副会長出席 |
| | 2日 | *秋工関西支部同窓会総会／船木副幹事長出席 |
| | 5日 | *第9回東京秋工ゴルフ会コンペ／於裾野カンツリークラブ |
| | 10日 | *けやき会事務局会議／船木副幹事長出席 |
| | 12日 | *東京雄水会(秋田商業同窓会東京支部)総会／澤木会長出席 |
| | 14日 | *澤木会長母校訪問 |
| 7月 | 9日 | *秋高連委員会／澤木会長出席 |
| | 13日 | *ひえばなの会／澤木会長出席 |
| | 17日 | *秋高連全体総会／澤木会長他有志出席 |
| 8月 | 1日 | *秋田市長との懇談会／澤木会長他出席 |
| | 8日 | *けやき会運営委員会／澤木会長他出席 |
| | 20日 | *秋高連役員会／澤木会長出席 |
| | 30日 | *幹事会／於澤木事務所 |
| | 9月24日 | *幹事会／於新橋しおり |

●会計報告●

平成7年4月1日～平成8年3月31日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---|-----------|---------------------|-----------|
| * 前年度繰越金 | 499,568 | * 総会費用 | |
| * 年会費 ¥3,000 × 159名 | 477,000 | ・ 会場費(東京プリンス)・酒代 | 533,854 |
| * 総会費 ¥7,000 × 49名(男) ¥3,500 × 4名(女) | 357,000 | ・ 来賓接待・東京プリンス謝礼 他 | |
| * 「KANASA」広告料 16件 | 148,000 | * 総会準備費 | |
| * 総会御祝儀・秋田工業高校 | 5,000 | ・ 総会案内、振込用紙等の印刷費 | 83,210 |
| ・ 同窓会本部 | 10,000 | ・ ハガキ、切手・封筒・文具 他 | 215,160 |
| ・ 東京雄水会 | 10,000 | ・ 書類封入送付アルバイト、備品運送他 | 52,072 |
| ・ 秋田市東京事務所 | 10,000 | * 会報「金砂」制作費 | |
| ・ ポプラ会 | 20,000 | ・ 版下代・印刷費(1200部) 他 | 350,000 |
| * 雑収入・澤木会長 | 45,000 | * 交際費 | |
| ・ 幹事有志 | 22,000 | ・ 東海支部総会御祝儀 | 10,000 |
| * 定期預金利息 | 1,158 | ・ 関西支部総会御祝儀 | 10,000 |
| | | ・ 東京雄水会総会御祝儀 | 10,000 |
| | | ・ 湯沢商工総会御祝儀 | 10,000 |
| | | ・ 秋田市東京事務所新築祝い御祝儀 | 10,000 |
| | | * 諸会費 | |
| | | ・ 平成7年度分秋高連年会費 | 10,000 |
| | | * 広告費 | |
| | | ・ 新春挨拶広告(秋田魁新報社) | 30,900 |
| | | * 会議費・幹事会食費 / 5回 | 109,510 |
| | | * 諸雑費 | |
| | | ・ 振込手数料 / 年会費、会報広告料 | 8,240 |
| | | ・ 幹事会案内及び広告料請求事務費 | 7,950 |
| | | ※次年度繰越金 | 153,830 |
| ●収入の部合計 | 1,604,726 | ●支出の部合計 | 1,604,726 |

※本会計は現金主義の会計制度を採用していますので、未収未払は計上していません。

●上記の通り決算報告いたします。

平成8年9月30日

会長 澤木 誠 一
幹事長 三 平 俊 悦

●適正のものと認めます。

監査 佐々木 昭 夫
監査 門 馬 金 初

平成7年度会計報告について

平成7年度においては、次年度繰越金が前年度に比べ約350,000円の減となっております。これは前年及び前々年における総会案内及び会報の発送が600～700だったのに対し、平成7年度は約1,100に増やしたために生じた経費増が要因となっております。会の活性化を図る意味で今後もより多くの会員の方達への会報及び総会案内の配付を続けて行く所存であります。会の安定的な運営を考慮する意味で、次年度は会報の広告収入を増やし、より多くの方達から年会費がいただけるよう強化いたします。また、総会案内の返信ハガキを受取人払いにするなどの対策を施し、経費節減を計って参ります。

会報の創刊以来、若干ではありますが年々会費の納付者が増えております。平成7年度の会計報告には参入できませんでしたが、3月末の締め以後に約10名の方からの納付が確認されています。(会費納付者前年比14名増)以上ご報告させていただきますが、ご理解と益々のご協力を宜しくお願い申し上げます。

お知らせ・ご報告

★澤木会長が秋高連会長に就任

我が東京秋工会の澤木会長(26E)が、在京秋田県高等学校同窓会連合会「秋高連(あきこうれん)」の第四代会長に就任されました。

秋高連は冒頭のご挨拶で会長も述べられているように、東京地区に現在45ある秋田県の高学校同窓会の連合会として様々な活動を行っています。

秋高連は昨年10周年を迎えておりますが、会の設立時には谷藤東京秋工会前会長(12M・故人)も発起人としてご尽力されています。

昨年の10周年記念総会(当時澤木会長は幹事長)では遠藤幸雄氏(30E)の講演を始め、10周年に相応しい盛り上がりのある総会が行なわれています。



10周年記念総会に出席した東京秋工会の面々

澤木会長は一つの節目を越えた今年、秋高連会長に就任されたわけですが、郷土と在京の秋田県出身者とのパイプ役として或いは次の節目に向かってより会を発展させ且つ活性化させていくための大変な時期に会長に就任されたと言えます。

そんな中において、会員の皆様にもご協力を仰ぐことがあろうかと思えます。その節はぜひご協力くださいますようお願いいたします。

★遠藤幸雄さん紫綬褒章受章

すでにご承知のことと思いますが、1996年度春の褒章受章において、我が東京秋工会の副会長である遠藤幸雄さん(30E)が、紫綬褒章を受章されています。

遠藤さんのことは今更あれこれ書く必要もないかとは思いますが、ローマ・東京・メキシコと3回のオリンピックに出場、金メダル5個、銀メダル2個を獲得され、体操競技に輝かしい成績を残されています。現在は日本大学文理学部教授として、また日本体操協会副会長としてご活躍されています。

昨年は本会報に寄稿いただき、体操競技とご自分について、また遠藤さんにとっての秋工について書いていただいております。

遠藤さんは気さくな人柄の方です。我々同窓の者にとっては同窓であることが誇りに思える存在です。残念ながら、今回の総会(11月1日)には体操の日本選手権がある関係で出席できないそうですが、例年は時間が許す限り必ず出席されています。総会に出席したことがなく、遠藤さんとお会いしていない方はぜひ出席されて遠藤さんの人柄に触れてみてはいかがでしょうか。



昨年の総会時の遠藤さん

ところで、東京秋工会にはもう一人春の褒章を受章されている方がいらっしゃいます。澤木会長です。澤木会長は平成元年に黄綬褒章を受章されています。残念ながらその頃はこの会報はまだ発行されていませんでしたので、広く皆さんにお知らせすることができませんでした。ここで改めてご報告させていただきます。

そして遠藤さんには、改めておめでとうございませうと言わせていただきます。

尚、会では幹事有志がお金を出し合って些少ではありますが遠藤さんにお祝い金をお送りいたしております。ご報告まで……。

★ゴルフ会コンペの報告

東京秋工ゴルフ会では昨年の11月10日に第8回を、そして本年6月5日に第9回のコンペを開催いたしました。

第8回は龍ヶ崎カントリー倶楽部に於いて19名の参加で行なわれました。同倶楽部で行なわれたのは2回目ですが、前回は嵐の中でのコンペであったのに対して、今回は晴天の中参加メンバー皆すがすがしい思いでプレーすることができました。

優勝者は志賀英一さん(31K)。志賀さんは本コンペ初の2度目の優勝となります。

第9回は裾野カンツリークラブに於いて前回同様19名の参加で行なわれました。これまでは茨城、千葉方面で行なわれていたコンペが、始めて東京以西での開催となり、いつもとは違う顔ぶれの参加もありました。

優勝者は横田忠さん(32M)。身体に比例した(?)ダイナミックなゴルフが功を奏した結果となりました。

さて次回は第10回を数えることとなります。10回目の記念大会ということで、会では一泊の宿泊を踏まえたコンペを企画しております。

ゴルフ会に登録されている方達には別途ご案内をお送りいたしますが、登録されていない方で参加を希望される方は、下記へご連絡ください。

尚、第10回の開催は茨城県の日立方面になる予定です。予算は、グリーンフィーと宿泊費含めて3万円代となる見込みです。(その他に会費1万円が必要) 日時は12月7日(土)が予定されています。組数は10組(40名)とし、先着順とさせていただきます。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

担当幹事/三平俊悦(39A)

連絡先/TEL: 03-3345-8011(会)

TEL: 044-852-0891(自)

★「けやき会」(在京秋田市出身者の会)発足

平成9年3月に秋田新幹線の開業が予定されていますが、秋田市東京事務所ではその開業を期に在京の秋田市出身者と秋田市とのより緊密な連携を図ることを目的とした、「けやき会」を発足させました。本年5月10日にはその設立委員会(第1回運営委員会)が開催されています。

同会の運営委員会は秋田市にある高校の東京同窓会支部を主体とした構成となっています。

東京秋工会からは澤木会長と三平幹事長が運営委員に、事務局員に船木副幹事長があたることになりました。

運営委員会の会長には秋田高校同窓会東京支部長の朝倉俊夫氏が就任されています。

同会の構成は秋田市の出身者、秋田市にある学校を卒業した方、その他秋田市にゆかりのある方となっており、今後そうした資格を有する登録会員を募っていく予定となっています。

平成9年1月には同会による「ふるさとの集い」の開催が予定されています。東京秋工会の皆さんは全員が有資格者ですから、参加ご希望の方は東京秋工会本部及び事務局にご連絡ください。(連絡先は本誌裏表紙参照)

★東海支部同窓会総会への出席

出席者/笹渕 茂(21Y)

東海支部総会の開催は、6月1日午後1時から。会場はJR名古屋駅から程近い「ホテルサンルート」で行なわれた。

同会にとって今年は10周年にあたる。といっても今回は格別の行事は実施されなかった。恒例の総会に引き続き、懇親会に入るといった通常の形式で進められた。

総会は富松東海支部会長の挨拶に次いで東海林

本部同窓会長、来賓のお祝いの言葉と続いた。

役員の一部移動の報告がなされ、総会は終了。

懇親会では、昭和3年卒の大先輩の、かくしゃくとした身ごなしからほとぼしる、学生時代の思い出話が披露され、出席者に感銘を与えた。

会員間では、この1年あるいは10年と、それぞれの過去の思い出話が弾んでいた。

※東海支部の総会へは、会長の代理として笹渕副会長に行ってくださいとあります。報告文をお願いしたのは8月の終わり頃だったため、詳細なことは思い出せないところを、無理やり書いていただきました。もう少し細かい部分が知りたいと思う方がいらっしゃるかもしれませんが、上記事情をお汲み取りいただきご容赦いただきたいと思います。

尚、東海支部では富松会長(17E)が名誉会長となられ、新会長には五十嵐安雄さん(28Y)が就任されています。東海支部の連絡先は、18ページをご参照ください。

東海支部総会の翌日には、関西支部の総会が行なわれています。関西支部へは私(船木)が出席させていただきますとあります。関西支部総会の模様につきましては「編集後記」の項で触れさせていただきます。

★その他のお知らせ・ご報告事項

平成7年度総会案内の返信ハガキで、次の方達のご逝去の連絡がございましたのでご報告させていただきます。

| | | |
|-------|-----------|-------------|
| 島崎得之助 | 大正14年機械科卒 | 平成2年 1月 ご逝去 |
| 臼井弘道 | 昭和13年機械科卒 | 平成7年10月 ご逝去 |
| 柏田五郎 | 昭和12年電気科卒 | 平成7年 2月 ご逝去 |
| 石川桂吉 | 昭和26年土木科卒 | 平成5年 5月 ご逝去 |
| 小林三夫 | 昭和27年機械科卒 | 平成7年 1月 ご逝去 |
| 戸田 斐 | 昭和29年機械科卒 | 平成7年10月 ご逝去 |
| 石郷岡孝広 | 昭和29年電気科卒 | 平成6年 5月 ご逝去 |

以上7名の方達のご冥福をお祈りいたします。

物故者についての情報が欲しいとのご要望が何名かの方達からありましたので、今号より掲載させていただきました。これ以前に亡くなられた方達についてはここで掲載することができませんことをお詫びいたしますと同時に、そうした方達のご冥福も合わせてお祈りしたいと思います。



寄り合い MB 31

加藤 善雄
株式会社 プロ技研
常務取締役
昭和31年機械科卒



編集の方より「MB 31」の結束の秘訣について披露して下さいのご依頼があり、僣越ながら筆を取った次第です。結束の良さを物語る前に、我がクラスの学校生活の一部を紹介させていただく。

入学は昭和28年4月、1,2年の担任は石川裕先生で、あだ名の名付け親は判らないが、「テキ屋」と呼ばれていた。先生は東京育ちで、いわゆる漱石の「坊ちゃん」にどことなく似ている。

曲がったことが大嫌い、正に竹を割ったような性格、学業には今時の様にやたらと競争心をあおり立てる事は皆無に近かった。年令もあまり差を感じさせないせいか兄貴分のような存在であった。

癖はやたらと出席簿で頭をパチッとやる事、しかし音の割には痛くなかったと記憶している。今ではやられた回数が、仲間内での勲章になっている。

生徒の中にはその当時秋田では珍しいストリップの公演があると、期末テストの中日でも足を向ける剛の者すらいた。テストの千秋楽には2階の教室の窓から、細かく切った新聞紙を“東京カーニバルショー”と叫びながら花吹雪としゃれこんでいた。今思うと、誠に勇気のいる行動と思うと同時に、吹き出したくなる。

答案返しの際にプービーメーカーには必ず、「君は前途有望である、なにしろ上に45人もいるからなあ」と付け加え、上位に対しては「目出たさも中くらいなりおらが春」と、一茶の句を添えて手渡していた先生もいた。

そんなこんなで学校が楽しくて仕方なかった。

卒業後早40年経ち、皆紳士然としている所はなんとも「時」の不思議さを感じさせる。

この様な教室の雰囲気は結束の土壌と思われる。また、人間どうしてもAとBに区分されると、AがBを意識するより、BがAを意識するという方が強いように感じる。そうしたことも、我がMBの無意識の内のまとまりの良さにつながったのではないかと、無理に個人的にこじつけてみたりしている。

しかし決定的な要因はなんと言っても太田君の存在である。彼は実にこまめに級友の情報をかき集めてくれる。多少抜けた所もないではないが、

それがかえって皆から親しまれている。彼から招集が掛ければ本当に万障を繰り合わせても集まる。このような集まりは、少なくとも年2,3回はある。

集まれば日頃のうっぶんを晴らすが如く、秋田弁でまくし立てる。酒が入れば止まる所知らず。お互いに終電が気になる頃ようやくお開きとなる。

この様な訳で東京秋工会の催しへの参加者も群を抜いていると伺っている。

自慢の種は、これまで8回行なわれている東京秋工ゴルフ会コンペで3名の優勝者を出す程、ゴルフ熱が旺盛な事である。最低年2回は東京にいるもの同士で、2年に1度は秋田に出向いて在郷の皆さんと楽しんでいる。

私も下手の横好きで始めてから10年になる。ようやくメンバーの方に迷惑を掛けずにコースを回れるようになった。夢は驚異的スコアでクラス4人目の優勝者になりたいと練習に励んでいるが、いつ果たせる事やら……。

この原稿も誰が書くかですったもんだの末、第8回の東京秋工ゴルフ会コンペでクラス最下位になった私にオハチが回ってきてしまった。己の腕の無さを怨めしく思っている。

書き続けるときりがない。ただ「MB31」、良き縁に出会ったことを神仏に感謝して筆を置く事とします。

平成7年12月

MB31の皆さんのこと

加藤さんをはじめMB31の皆さんは、ゴルフ会のコンペ或いは総会の席に必ずと言っていいほど何人かのグループで出席していらっしゃいます。文中に登場した太田さんは、東京秋工会の幹事でもあり、やはり何かとこまめに動いては会の運営に協力して下さっています。

それぞれ皆さん会社等では重責を担った地位にいらっしゃる方々ではありますが、会で見かける姿は羨ましいかぎりの仲間達です。こうした姿を拝見できるのも同窓会ならではの事なのでしょう。

今後もこうしたクラス仲間の特集をしてみたいと考えております。次回は39Aの皆さんのことを紹介する予定ですが、自分のクラスもこうだぞということがありましたらぜひお知らせください。原稿をお願い出来る方はご一報くださいますようお願いいたします。

秋工レスリング部の一時代

門 間 金 初

●東京秋工学会計監事●
昭和31年工業化学科卒

私が秋工レスリング部に入部したのは、1学年の秋(昭和28)でした。兄が同部にいたので誘われた、というより強制されたものです。

入部した時の部員は記念写真で見ると22名です。2年の時27名、3年卒業前で28名です。入部当時の練習場は畳敷き。2年生の時ズック製のキャンバスが畳の上に敷かれました。

当時の秋工の実力は県内では上位でしたが、秋田県全体は(全国レベルに比べて)低いものでした。第9回国体(昭和29年)の高校入賞者は、52kg級で3位入賞の一人だけでした。ですから協会全体として全国水準全国水準に追いつき追い越せの一丸となった取り組みをしました。その対策の一つが大学のレスリング部の合宿を秋田にもつてくることでした。

専修大学が夏合宿を秋田で行いました。その合宿に参加させてもらいながらその年のインターハイに出場できたことで調子づきました。

東京青山レスリング会館で行なわれた高校レスリング選手権での私の戦績は、2回戦の仙台育英高校の選手に判定まで粘られた以外、他の5試合はフォール勝ちでした。

決勝戦は、名商大附高(愛知)の選手と対戦。開始50秒、正面タックルが絵に書いたように決まって相手を高々と持ち上げました。

決まったゾ!とマットにたたきつけ、勝利を告げられた時、「これで終わった」という安堵感でへたりこみたくなったものでした。

無名の秋田からの優勝という、考えられない快進撃でした。

忘れられないのは準決勝での新潟商との対戦でした。試合はもつれこみました。終盤に入って相

手の背面に回り込んで腰を抱えたまま、真後ろに背中から倒れるようにして投げる、通称「バック投げ」という大技が決まったのです。練習の時でも一度もやったことのない空前絶後、一生一代の大技。ブリッチした私の目の前に、頭から落ちた対戦者の両肩がべったりとマットに着いたのです。

ホイッスルが高く鳴り、フォールが告げられたが、手が上がったのは対戦者。抗議ですぐに訂正されましたが、確かに投げなのかつぶされたのか難しいかもしれません。しかし、3人のジャッジは全員が「秋田」と確認していながら、レフリーの初めの宣告にジャッジが訂正を求めたものでなかったのです。

当時は秋田と新潟では、秋田は無名。新潟は巨大な峰でした。

この年のインターハイは、附高の選手も2位入賞でした。

秋の第10回国体では私の優勝を含め、4名が上位入賞。同期MBの高田静男選手が52kg級で、2位になっています。団体で秋田県は2位。

国体での優勝も加わり私は2冠をひっさげて、来日していたトルコチームとの国際試合に唯一の高校生として出場できる僥倖を得ました。試合は判定で負けましたが……。

全国で通用する実力という自信はみんなのものになり、私が卒業した年、1年後輩のチームは東北大会、全国大会で団体優勝しました。

まったく無名の秋田が一躍全国のレスリング王国にのし上がったのも秋工レスリング部の活躍があつてのことです。

それにしても最近、秋工レスリング部の戦果を聞けないのは淋しいことです。

戦後50年・盛夏に思う

- ハワイに旅して、終戦詔勅の秘話に至る -

菊池 輝 (輝男)

(かがやき)

日本ハウズィング株式会社 勤務

昭和31年電気科卒



夏本番・酷暑の東京を逃れ、ホノルルに到着した。歓迎するかのように、さわやかに輝く暑さと碧い空、それにハイビスカスの原色のような赤、そしてそのバランスが異国情緒の第一印象である。

『HAWAIIの海が見たい』との連合(つれあい)が一言で真珠婚記念と銘し、ハワイ旅行を決めた。多い思い出と、大きな節目を伴った初老のハート旅行(株)クボタの福祉制度)でもある。

旅程は5泊7日のフリーツアー。初の海外旅行に、少々気後れもないではないが、連合の手前(亭主の地位もオチテ)もあり、何十年、自治体のお客様を求めて土地勘のない全国の地方セールスで走り廻ったことか？

英語文化圏の食わず嫌いも何のその！ 気概大和男子と、気後れが交差する気持ちを押さえて成田より機上の人となったのである。

妻の喜びをサポートした後楽を求めて旅を試みようが目的である。

旅の初日、パールハーバーとアリゾナ記念館を訪ねた。

50年前の遠く過ぎし日(1943.12.8)、のどかな日曜の朝である。艦載機の練習位に思ったハワイ住民は、数分後、飛行機を狙った空爆で、戦争と思ったようだ。

当時、私より10歳位年長の方々が国策の天命で、兵にとられ、青春を犠牲にして戦いをする他は、ノー・チョイス(選択)であった。ここがその太平洋戦争勃発の地、真珠湾である。

英霊よ安らかに眠り下さい。

戦後約半世紀、思いは遠く昭和20年8月14日、日本政府が開闢(かいびやく)以来初めて全世界に公表する、終戦(無条件降伏)の文書・文案は簡単には決まらなかった終戦秘話がある。その逸話を御紹介しよう。

8月14日、午後1時より始まった『詔書』原案の審議こそは、日本の将来の方向を決する重要、かつ鈴木貫太郎内閣の最終閣議でもあった。早く文案を終了し、清書して天皇に奉呈、その後『玉音放送』のためのレコード盤録音という大作業がある。

天皇が「まだか。早くするように」との催促が続

く中で審議は深刻を極めた。

一方、戦争は絶対に継続すべし……との軍部強行派が『聖断』の情報をキャッチして、宮城進入・閣議阻止・録音盤奪取の計画を進めているらしい……とのニュースも次々に伝えられてくる。

『……朕の体はどうなってもよい。連合国の無条件降伏を受容せよ。……』閣僚達は今、声涙共に下る天皇の言葉を聞いた。

陸軍の徹底抗戦、1億玉砕論をピタリとこの一言でおさえた44歳の天皇による『聖断』は、今考えても何とすばらしい英断であったろうか。

日本民族の破滅を今救う方法は、無条件降伏より他に道はない。しかし一天皇は幾度も、ハンカチで目頭を拭い、今まで働いてくれた将兵、戦災で家や身を焼かれた国民のことを思えば、私の体がずたずたにかきむしられるようなおもいであると悲痛な言葉を吐かれた。

この天皇の大切な思いをどう『詔書』で表現するか。

安岡正篤の登場が始まる。

鈴木老総理(当時79歳の海軍大将)に呼ばれて、『安岡さん、助けて下さい。あなたの外には誰も出来ないのです！ すぐ書記官長の所へ行ってやって下さい。』

安岡は当時大東亜省顧問、和漢洋全てに通じた陽明学の大家である。直ちに総理官邸2階の迫水久常書記官長(鹿児島県出、後の参議院議員)を訪ねた。

安岡の第1案は一寝食、安からず一で、あった。いや天子のお気持ちはこんなものでは足りぬ。

一断腸ノ思ヒス一

と訂正するや。いや、まだ真の天皇の御心は、伝わってこない。ここまで国民のことを思う天皇の心情は、こんな言葉では、尚足りぬ。そうだ、この一語しかない。

一帝国臣民ニシテ……非命ニ幣(たお)レタル者……ヲ思エバ……五内為ニ裂ク一 と

一気に筆を進めた。

これでよし。五内は五体(手・足・腰・頭・首)の体すべてである。しかし更に一段と難しい個所があった。

この戦さは、何の目標を以て矛(ほこ)をひこうとするのであるか。大変大事な所だ。どう表現するか。

一堪工難キヲ堪工忍ビ難キヲ忍ビ、以テ永ク社稷ヲ保衛セムト欲ス一

これで良いか。いや、この言葉こそ戦さを、180度転換する日本の将来の大目標となる。

もっとも壮重な言葉でなくてはなくてはならぬ。ここが終戦詔書の大眼目である。

しばし、沈思黙考、苦吟する脳裏にひらめく一閃、中国の宋代の大碩学、張横渠(ちょう・おうきよ)の名格言を思い起こしていた。

『一天地の為に心を立て、生民のために命を立て、往聖の為に絶学を継ぎ萬世の為に太平を開く一』

これだ！ 一気に筆を走らせて、ここに有名な終戦の詔書の大眼目が出来上がった。

しかし、内閣の顔ぶれは、いずれも『日本帝国』の最後の一言居士ばかり、その背後の集団を代表して、めいめい勝手な意見開陳が延々と続いた。

書記官長は『安岡先生。この萬世ノ為ニ太平ヲ開ク……ここが問題なのです。』

安岡の目がキラリと光る。

『どうして、問題なのか？』

『これは降伏を告げる文書です。閣僚諸公は、こんな、大口をたたいては、再び交渉受諾の道が決裂すると懸念していますし、どうか、ここはあくまでも、敗戦国家として、おだやかな表現にせねばと……』

安岡は昂然と書記官長の顔を見すえて語調もするどく

『迫水さん。そうではない。だから学問の無い人は困るのです。いいですか。このこの萬世ノ為ニ太平ヲ開クうんぬんは、宋代の大学者「張横渠」の格言から取ったのです。これが「永遠の平和を望む」と云う正しい表現で、別に少しも威張っておる訳じゃ無い。これ以上に、天子の言葉として重厚なものはない。迫水さん、さあ、内閣諸公を十分説得しなさい！』

烈々の気迫であった。

安岡の言う「張横渠」この人は宋代の大儒学者である。

『乃公出でずんば天下の蒼生を如何……』

と迄揚言したことで有名な、宋代名宰相・王安石も張横渠の前には頭が上がらなかった位の大人物である。

迫水書記官長からくわしい説明を聞かされた閣僚の面々は、

『さすが安岡先生だ。これでいい……』

と、不明を詫びた。

連合国にも簡素に直截、真実を吐露すれば、必ず真実は通ずる。

全文、これ天皇の言葉である。但し一駒でも指し違ふならば……すべてこの安岡の責任である。

実に当代無双の国士として面目躍如たる安岡正篤の心境であり、後年側近にのみ漏らしたこの人の当時の感懐であった。

戦後長らくの間この貴重な資料は行方不明であった。この原案草稿はもはやこの世に無いと思われていたが、最近発見せられて、いま東京『国立公文書館』に保存せられている。

今、50年を経て、再起復興、空前の繁栄を果たした日本は、『萬世太平の道を着々と賢明に進んでいる。』

平和憲法の下、私達は経済大国日本としてゆたかな生活の中におります。50年前、戦災でもはや失うべき何みのも無い時代に『自由と平和と富』について夢見ました。そしていまその夢は殆んど満たされたように思われるのですが、何故か人々の『心』に充足と安寧の気配はみられません。むしろ不安と不満は以前にも増して肥大化しているとも云えそうです。

『豊富の中の貧困』とでも言うのでしょうか。何か重要な価値観の基準が欠落しているとしか考えられません。一体それは何なのでありましょうか。“人間らしく生きるとはどういうことか”について謙虚に考え学ばなければならないときに立ち到っているのだと思われます。

夏夜、涼を逐いながら 師、安岡の指導を受け 警咳(けいがい)に接してきた一人として『今、安岡先生が、いてくれたならば……』的確な御指導を戴けるのにと思うのは、私だけであろうか。

いや幾多の人々も思いは同じことだろう。

ちなみに安岡が事あるごとに吾が師として尊敬し仰いだ兄は、高野山真言宗・総本山金剛峯寺。第四百世座主を、つとめた堀田真快大僧正である。

今はこの二人、泉下において睦まじく語り合い、日本の将来を見守っていることであろう。

以上が終戦詔書の逸話であり夏の所感である。

(資料/「安岡正篤物語」河内新聞社)



入試・入学のころ

● その2 ●

笹 渕 茂
(21Y)



S先生のはなし

冶金科長のS先生は、キャラメル。生徒に何かと甘かったのでこの名がある。その具体的な例を先輩からいろいろ教わった。

それは、わたしたち1年生の2学期の専門教科の期末テストのときだったと記憶する。

試験の前日、S先生に出題の範囲を伺ったところ、教科書の〇〇ページから△△ページまでだという。さっそく調べてみたらなんのことはない。2学期習ったすべてのページに渡っているではないか。

このようにちょっぴり皮肉なことを言って、うまくかわす先生だった。

さて困った。ヤマをかけるには余りに広すぎる。それに、当時の専門教科のテストでの答えは、論文調で文章を書かなければならなかった。今の取捨択一式のような簡単なものではなかった。

ここで、先輩の助言の威力が発揮することとなる。

「キャラメルはナ、この生徒が一生懸命勉強してきたかどうか、そこのところを見る。そこでダ。わからない問題が出てきても、慌てちゃいかん。ヤマをかけて調べておいた箇所を、どうだといわんばかりに詳しく書け。詳しくだゾ。問題の取り方を勘違いしたふりをするんだ」

先輩というのはほんとうにありがたいものだ。

先輩の助言どおりに、初めのほうは問題に対するそれらしい答えを、短く“漠然と”書いた。が、そのあとの叙述では、あらかじめ用意しておいた“解答”へ強引に持っていった。そして、そのところでは、まことに詳しく、具体的に述べた。

こうして大変なピント外れの答えを書いて出したのだが、ほぼ満点をくれたのだった。

S先生には「タコ」との別称もあった。学校の正門を出て突き当たりのところにT字路がある。出勤時“タコ”がそこを左折してくるときの姿勢がまさにタコの歩く姿。体をぐにゃぐにゃにさせながら体を左に傾け、右手を大きく振ってバランスをとりながら角を曲がる。ちょうどグラウンドを疾走している選手がコーナーを曲がる時のあのかっこうだ。それに、ぐにゃぐにゃをつけてゆっくり歩いてきたところを想像すればいい。だれが付けたのか定かではないが、タコとはうまい表現だ。

ご本人の先生に、そのことについて遠回しに触れたら、先生も遠回しに答えてくれた。

昔、日本男子は20歳になると、兵隊検査を受けなければならない義務があった。甲種合格、乙種合格、丙種合格というランクがその場で付けられるという、ひどい話だか、先生はその中の丙種合格だったという。

この丙種というのは兵隊として使いものにならない人を指しているのだそうだ。

なるほどタコかと、複雑な気持ちながら納得したことだった。



S先生とK先生



製図のK先生の授業が、何かの事情で受けられなくなった。代わって来たのがS先生。あだ名はゲタ。下駄(げた)のように平べったく四角い顔だったからか？。それとも一画法、三画法などと図面説明のとき、決まってゲタを描いたからなのか？

S先生の発音には独特のクセがあって、たいへん聞き取りにくかった。唇をほとんど動かさないので、腹話術の手法で話しているようだった。まるで鼻の穴から声を出しているみたいで、絞まりのない発音だった。また、「全部」のときは、「ジエンプ」となまって発声していた。

この先生は、まことに温厚な方だった。温厚にかけては、全校のなかでこの先生の右に出るものはなかったのではないか。それほどの温厚で物静かな方だった。もちろん大きな声をたてたこともない。

なんの試験のときの監督だったか忘れたが、テストの立会人として、このS先生がわたしたちのクラスの見回りに来た。

しばらくしてクラスのだれだったか、これも忘れてしまったが、自分のカバンから教科書を取り出して、堂々とカンニングをはじめたやつがいた。

S先生は立場上、当然ながらその生徒のところへ行行って、教科書と生徒の顔をのぞき込んだ。これでこの者に対して無言の圧力をかけたつもりだったのだろう。

ところがこの見られている御仁もしたたか者。先生の顔をキッとにらみ返したのだ。

もともと穏やかなS先生のこと。これにはかなわないと見てか、とうとう教室の外に出て行ってしまった。立会人のいなくなった教室は、その後どうなったか。これを弁ずる必要はもうないだろう。

国語・東洋歴史のK先生には、花王せっけんというあだ名がついていた。先生の下あごが前方に突き出っていて、花王せっけんのトレードマークの月

の顔に似ていることからそうつけられたらしい。

この先生も、なかなか穏健な方だった。それでいて、けっこうなギャグを飛ばして生徒を笑わせるところがあった。K先生はわたしたちの担任でもあった。

校長が校長室からトイレに行くとき、わたしたちのクラスの前の廊下を通るのがのが常だった。校長のくつ底には「鳴り革」が入っていた。歩くときくつからキュッキュッと快い音がした。

その日はK先生の東洋歴史の時間。そのとき、校長のくつの音が聞こえてきた。K先生は、はたと授業をやめ、そのくつの音を聞きながら言った。

「偉い人はああいう足音をたててくるんだね」

校長のキュッキュッがすぐ近くまで来た。K先生が今度は早口で言った。

「さあ真剣なまなざしで教科書を見て！」

そしてまたゆっくりと講義を再開した。

「王安石“さん”はこうして……」

先生は教科書に目を通しながら、校長のくつの音が聞こえなくなるまで講義を続けた。ところどころを、とぼけた読み方をして。そしてちょっぴり恥ずかしそうに両の耳まで紅潮させながら……。



作者紹介

笹 淵 茂
 東京秋工会副会長
 昭和21年7冶金科卒業
 首都圏男鹿の会副会長
 現在埼玉県戸田市在住

前回そして今回と四部構成に渡った「入試・入学のころ」いかがだったでしょうか。

笹淵先輩の記憶力に感心すると同時に、秋工をこよなく懐かしみそして愛する気持ちが出ているように思います。次回作を期待したいと思います。

理事長杯優勝の喜び

佐々木 武

●東京秋工会幹事●
バブ日立工業株式会社
東京営業所付技師長
昭和29年機械科卒

拝啓

お元気ですか。ご無沙汰ばかりですが、その後如何お過ごしでしょうか。小生も相変わらず元気にやっております。

ところで、上向っていたゴルフはその後益々磨きがかかったことでしょうか。小生も大変な事が起きました。そこで、少し紹介したいと思い、ペンを取りました。

去る5月26日(日)の事です。金乃台カントリークラブ(茨城県牛久市)の理事長杯で優勝したのです。理事長杯、理事長杯ですよ。それに加えて、更に驚きなのは、ホールインワンもやってしまったのです。ホールインワンです。

当日は朝7時30分から2ラウンドでしたが、それが両ラウンド共、自分のベストスコア(38/44, 39/42)が出たのです。勿論、生まれて初めての奇跡に近い快挙そのものです。そして、ホールインワンは2ラウンド目の8番ホール、125ヤード、ベントグリーンでした。グリーンの旗は見えましたが、旗の根元は木に隠れて見えませんでした。9番アイアンで打つとボールが旗の方へ左からスライスぎみに飛んで行き、〈入ったあ...〉の歓声が湧き上がり、大騒ぎになりました。生まれて初めての事でした。気も動転してしまいました。万歳、万歳、万歳。パートナーやキャディさん達と騒いでいたところ、丁度、金乃台カントリークラブの古賀理事長が小生等に続いてプレーされており、それは喜んでいただきました。

近くでこの騒ぎを実感頂いたのが一番だったのでしよう。入った、入った。ありがとう、ありがとう。大感激の一瞬でした。

「理事長杯で同じ選手が、優勝とホールインワンを、一緒にやったのは本クラブで初めてだ。ホールインワンという錦上華をそえる快挙、心より敬意を表し、お祝い申し上げる。」

理事長が表彰式で、小生の奇跡を讃えて下さいました。

{人生最良の日}とはこの事かと、とても幸せな気持ちになって居ります。当日のパートナーは、いつも色々と教えて下さいます森翠さん、ハンディキャップ1の三上欣次さん、そして、当日初めてお会いした渡辺義明さんでした。皆さんの真剣なプレーから、緊張感がキャディさんにも伝わり、頑張つてよ、と応援して貰いながら、迷惑を掛けないように、一心無欲で、最後まで自分の最高のプレーを継続できた事が、この結果を生ませてくれたものと、感謝の念で一杯です。

自分の嬉しかったことばかり書きましたが、今度、ぜひチャンスを作って一緒にプレーしたいものです。お互い健康が一番の年代になりました。ゴルフの調子と健康の調子是一緒の様です。健康に気を付けて頑張りましょう。

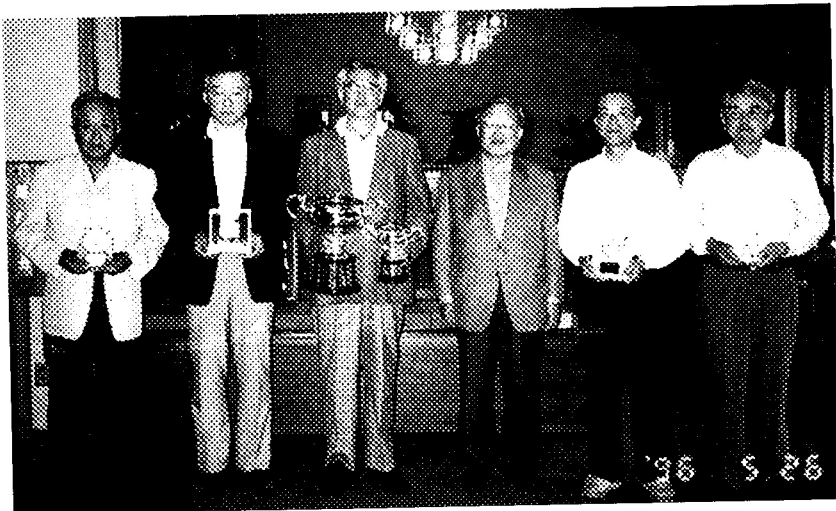
最後に、クラブ内で写した入賞者の記念写真を同封します。小生はカップを2つ持って喜んでおります。小生の右となりが古賀理事長です。

では、またお会いできる時まで、お元気で。

親愛なる友へ

敬具

平成8年6月吉日



船木 一美

東京秋工会副幹事長
有限会社ティーピーオー代表取締役
昭48 機械科 卒

6月2日に開催された、関西支部の総会に行ってきました。

澤木会長が所用でどうしても行けないということと、たまたま、私用でその前日に私が大阪に行くことになっていたため、急ぎよ会長の代理を仰せ付かったというわけです。

実は、バレーボールのオリンピック最終予選がちょうどその時に行なわれており、姪の応援が大阪行きの主目的だったわけですが、幸いにも総会の前日にクロアチアに勝って出場を決めてくれたので、ホッとしつつ関西支部の総会にお邪魔してみました。

会場は新大阪駅から御堂筋線で2つ目(だったかな?)の駅のそばにある、サニーストンホテル。会場手前で、おそらくは大先輩かなと思われる方と一緒にになり、話をしてみたらやはりそうで、その方と会場入りしました。

その大先輩は石山武さんとおっしゃって、当日関西支部再興15周年の記念講演をされた方でした。昭和4年に電気科を卒業され、現在は京都に住まわれているとか。

さて、きしくも再興15周年という席にお邪魔することとなり、少々恐縮もしましたが、東京秋工会の総会とはまた違った同窓会の雰囲気を感じていただきました。

奥さん同伴の方が何人かいらっしゃいました。どこも同じだなと思ったのは若い方が少ないこと、長寿祝いの記念品贈呈など、年配の先輩を大切にされている点は我々ももっと考えるべきかなと思いました。

他にも色々感想を持ちましたが、それは今後の東京秋工会の運営に役立たせていただくこととして、取りあえず関西支部へ行っての感想はこの辺にさせていただきます。

さて、前号VOL3についてお詫びがあります。

佐藤稔先輩の書かれた、良寛様の話の文中に文字の間違いが17箇所あるとの指摘を佐藤

先輩よりありました。もう既に皆様の手元に配付した後でしたので訂正もできませんでしたので、ここで改めて、佐藤先輩にはお詫びいたします。



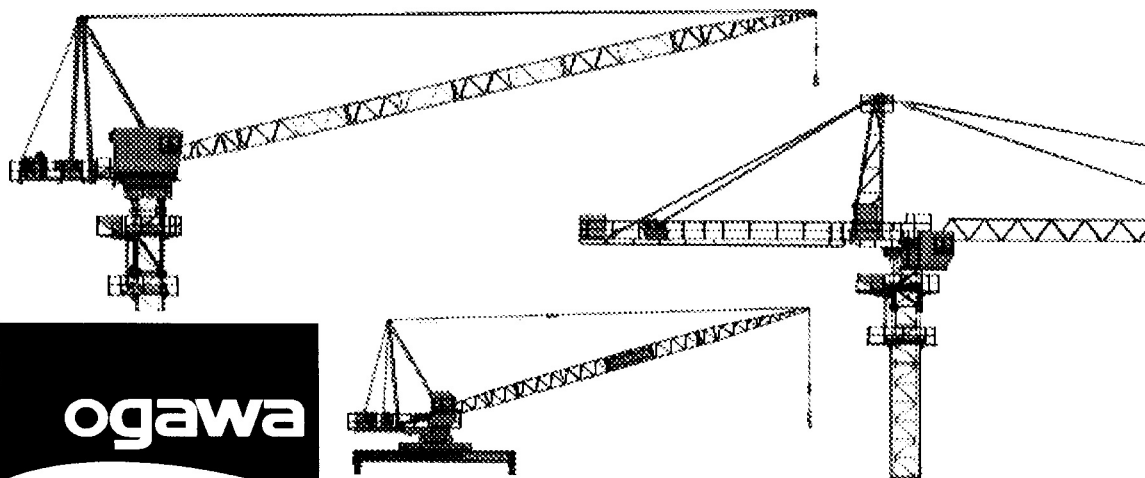
今回は、第5号ということになります。今回はいつもよりページ数が増えました。それから広告の件数が増えました。お知らせ事項も増えています。

内容は充分充実してきていますが、まだまだ物足りないことがあります。

それは、殆どの原稿が幹事及びその周辺からしか出てきていないことです。できれば色々な方から投稿して戴きたいものです。ぜひ原稿をお送りください。お願いいたします。

今回は、東海林会長を初めとする秋田同窓会本部皆さん及び東海支部の富松名誉会長に広告のご協力を戴きました。心から御礼申し上げますと同時に、今後ご協力を宜しくお願いいたします。

タワークレーンの ogawa



株式会社小川製作所
小川リース株式会社

代表取締役専務
代表取締役社長

川端 (林) 邦夫
(昭31 機械科卒)

本社 / 千葉県松戸市松戸新田 435 - 13 小川ビル TEL : 0473 - 65 - 3211(代) FAX : 0473 - 65 - 3273
工場 / 千葉県印旛郡白井町名内 330 第2 白井工業団地内 TEL : 0474 - 97 - 0765 FAX : 0474 - 97 - 1039

技術士・経営士 (コンサルタント)

浦井 技術士 経営士 事務所
(経営工学士) (生産)

(U. E. M.) ← (略称) ←

“気軽にご相談下さい”

所長 浦井 宗治

連絡先

〒207 東京都東大和市高木 3 - 419 - 3

TEL : 0425 - 61 - 0740

FAX : 0425 - 62 - 4557

(社) 日本技術士会登録専門事項

生産性向上, 生産管理, QC, レイアウト

仕掛及び在庫削減, 新製品新加工法体系

標準化統合化, IE, VE, TPM

付加価値経営計画, コストダウン

昭和12(1937)年 秋田工業高校機械科 卒

豊富な総合技術で 明日をめざす



株式会社 東北機械製作所

本 社 / 秋田市茨島 1 - 2 - 3 〒010 TEL : 0188 - 62 - 5541 (代)

茨 島 工 場 / 秋田市茨島 1 - 2 - 3 〒010 TEL : 0188 - 62 - 5541 (代)
FAX : 0188 - 62 - 5626

向 浜 工 場 / 秋田市向浜 1 - 3 - 1 〒010 - 16
(大型物組立)

東 京 支 社 / 東京都港区浜松町 1 - 12 - 6 第一浜松町ビル 3F 〒100
TEL : 03 - 3435 - 1701 (代)
FAX : 03 - 3435 - 1715

青 森 営 業 所 / 青森県青森市長島 2 - 10 - 4 新藤ビル別館 3F 〒030
TEL : 0177 - 22 - 5599
FAX : 0177 - 22 - 5599

東北マテックス株式会社

取締役社長 村上 通 郎 (昭 26 冶金科卒)

※秋工同窓会東北機械支部長

秋田市川尻若葉町 6 - 1 〒010 TEL : 0188 - 62 - 5271 (代)
FAX : 0188 - 62 - 5295

文字が伝える
あたたかい情報



株式会社 東海林印刷

代表取締役社長
東海林 正隆
秋工同窓会会長

〒010 秋田市榎山登町 7-51
TEL. 0188-35-2959
FAX. 0188-35-0722

澤木萬國特許事務所

内外国への特許，実用新案，意匠，商標出願
侵害事件についての相談・鑑定・調査

所長弁理士 澤木 誠一
(昭26 電気科卒)
弁理士 澤木 紀一

〒105 東京都港区虎ノ門 1-18-1 第10森ビル 8F
TEL : 03 - 3501 - 0937 (代)
FAX : 03 - 3595 - 0059

株式会社 大岸製作所

建設機械部品の総合メーカー

本社 / 東京都足立区新田 3-10-6
埼玉工場 / 埼玉県南埼玉郡白岡町上野田
山形工場 / 山形県西置賜郡飯豊町添川 3514
米沢工場 / 山形県米沢市万世町片子 5850-1

●主要取引先 日立建機株式会社
新キャタピラー三菱株式会社
三菱重工株式会社
株式会社加藤製作所

代表取締役社長 佐藤 進 (昭32 機械科卒)

ドラゴンマンションの


株式会社 大地住販

宅地建物取引業免許 建設大臣(3)第3740号
〒229 神奈川県相模原市相模原 5-1-1
TEL.0427-53-1155(代) FAX.0427-57-5010

企画開発事業本部 事業部長

三平 俊悦
(昭39 建築科卒)

企画開発事業本部

〒163-02 東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル36階
TEL.03-3345-8011(代) FAX.03-3345-8013



冬の坂道対策

道路・地下道・歩道橋の融雪と凍結防止に
“ロードヒーティングシステム”を

ケーブルシステム方式・(昭和電線)
面状発熱体方式・ほか各種発熱体



千代田電気工業株式会社

代表取締役社長 小野地 謙 治 (昭18機械科卒)
代表取締役専務 小野地 慎 一

〒010 秋田市中通り 6-3-30 TEL: 0188-33-5451(代) FAX: 0188-34-5539

時代が求める業務を
トータルに展開しています。



ハブ日立工業株式会社

事業概要

- 電子機器部門 ・各種電子機器、装置の設計、製作、調整、工事等。
- 技術調査部門 ・各種プラント等の組成分析、物性測定及び材料調査、試験。
- プリント部門 ・複写、印刷に関する企画から製作までの総合業務。
- 特殊加工部門 ・異工場の設備を応用した各種特殊加工、製作。
- その他 ・各種工事及びハブコック日立グループ各社などの製品販売。

本 社 〒737 広島県呉市宝町 5-3 TEL: 0823-21-3353(代)
茨城営業所 〒316 茨城県日立市留町 1173-2
TEL: 0294-54-1600 FAX: 0294-25-5315

東京営業所付技師長 佐々木 武 (昭29 機械科卒)

給排水、衛生、空調、設備 設計、施工、保守



株式会社 北勢工業

質実剛健 二人で咲かず同期桜

社長 太田 光重 (昭31機械科卒)
専務 仙北谷 孝治 (昭31機械科卒)
常務 太田 博之 (昭56工業化学科卒)

秋田市仁井田本町 5-1-62
TEL: 0188 (39) 6516
FAX: 0188 (39) 6513



大平産業株式会社

営業品目

- オイルスベアリング
- ボール、ローラー、ベアリング
- ニードルベアリング
- ボールネジ
- ピロプロック
- 油空圧機器及び装置
- 二硫化モリブデン系潤滑材
- その他工業機器及び用品

オイレス工業株式会社 代理店
光洋精工株式会社 代理店
ダイキン工業株式会社 代理店
日本ピロプロック製造株式会社 代理店
住鋳潤滑剤株式会社 代理店

本 社 〒550 大阪市西区立売堀 1-11-2
TEL: 06-541-0021(代) FAX: 06-531-5293
東京営業所 〒123 東京都台東区元浅草 1-4-8 第2ウサギヤビル2F
TEL: 03-5828-1731 FAX: 03-5828-1735

東京営業所所長 太田 晋 (昭31 機械科卒)



遠隔監視制御装置 道路情報装置
計 測 器 端 末 機 器

コウヨウシステム株式会社

代表取締役 高橋 陽之助 (昭31 冶金科卒)

〒251 神奈川県藤沢市辻堂西海岸 1-7-22
TEL: 0466-36-5501
FAX: 0466-36-7101



株式会社 汎建築設計事務所

鈴木 誠一 鈴木 玲子
(昭38 建築科卒) (昭38 建築科卒)



秋田市保戸野すわ町 13-1
TEL: 0188 (62) 3449
FAX: 0188 (62) 3289

21世紀を育む環境づくりをめざして



不動建設株式会社

部長 小野 鉄雄 (昭38 土木科卒)
課長 鷲塚 勝幸 (昭39 土木科卒)

東京本社: 〒110 東京都台東区台東 1-2-1
TEL: 03-3837-6096

Total Plant Engineering



株式会社 五十鈴製作所

代表取締役会長 富松 宗富 (前秋工東海支部長)

本社 〒457 名古屋市南区前浜通り3-21五十鈴ビル
TEL (052) 823-2181 (代) FAX (052) 823-2186
工場 愛知県碧南市 / 秋田県秋田市



本部長付
菊池 輝男
(昭31 電気科卒)



日本ハウズイング株式会社

第4住宅営業本部

本社 東京都新宿区新宿 1-35-10 〒160
TEL : 03-3341-9227 (代表)
FAX : 03-3350-6394

各種試験機・部品・検定器の製造・販売・修理

各種試験機・下取り・更生品の販売

日本計量士会・日本海軍協会の検定申請・立会

重力単位表示 (kgf) の試験機から

SI単位表示 (N) の試験機への改造一式

株式
会社

日本試験機製作所

〒146 東京都大田区東矢口 3丁目 29番地 1号

TEL : 03-3732-1678

FAX : 03-3732-1684

齋藤 靖宏 横田 忠
(昭32 機械科卒) (昭32 機械科卒)

クワイエンスワークをトータルに
サポートいたします。

プロダクトデザイナー
代表取締役

船木 一美
(昭48 機械科卒)

TPO

TOTAL PLANNING OFFICE

有限会社 ティー・ピー・オー

〒150 東京都渋谷区兼谷町 7-7 O.Hビル 301

TEL : 03-5489-5024

FAX : 03-3770-0077

INFORMATION

東京秋工会役員 ※平成8年10月1日現在

| | | | |
|---------|-------------|------|--------|
| 会 長 | 澤 木 誠 一 | 26 E | |
| 副 会 長 | 笹 渕 茂 | 21 Y | |
| | 斉 藤 右 二 郎 | 26 M | |
| | 三 浦 満 夫 | 28 E | |
| | 遠 藤 幸 雄 | 30 E | |
| | 志 賀 英 一 | 31 K | |
| 幹 事 長 | 三 平 俊 悦 | 39 A | |
| 副 幹 事 長 | 小 野 鉄 雄 | 38 C | |
| | 船 木 一 美 | 48 M | |
| 幹 事 | 松 本 徳 平 | 27 M | |
| | 佐 々 木 武 | 29 M | |
| | 太 田 晋 | 31 M | H.7 新任 |
| | 川 端 邦 夫 | 31 M | |
| | 佐 々 木 喜 代 枝 | 32 K | |
| | 加 賀 谷 健 治 | 36 E | H.7 新任 |
| | 菅 原 富 男 | 39 A | |
| | 相 馬 洋 悦 | 40 A | H.7 新任 |
| | 奥 山 恍 | 41 K | |
| | 石 崎 幹 子 | 42 K | |
| | 田 畑 敏 男 | 45 E | H.7 新任 |
| | 染 谷 厚 子 | 47 K | |
| 会 計 監 事 | 佐 々 木 昭 夫 | 25 M | H7. 新任 |
| | 門 間 金 初 | 31 K | |

秋工同窓会本部・支部

- 同窓会本部
 - ・事務局 秋田市保戸野金砂町3-1 〒010
 - ・電 話 0188-62-1256
 - ・同窓会長 東海林正隆 (17S)
 - ・幹事長 佐藤俊英 (29M)
- 北海道支部
 - ・事務局 札幌市中央区北四条西1丁目共済3F 共済連交通事故相談所 〒060
 - ・電 話 011-232-6348
 - ・支部長 吉岡 昭 (20M)
 - ・幹事長 小浜建作 (20M)
- 仙台支部 (仙台金砂会)
 - ・事務局 仙台市青葉区二日町1-23熱海ビル 日建工業(株) 〒980
 - ・電 話 022-221-4576
 - ・支部長 加藤春男 (17C)
 - ・幹事長 手塚光彦 (25S)
- 東海支部
 - ・事務局 名古屋市南区前浜通り3-21 (株)五十鈴製作所内 〒457
 - ・電 話 052-823-2181
 - ・支部長 五十嵐安雄 (28Y)
 - ・幹事長 塚本憲夫 (42M)
- 関西支部
 - ・事務局 大阪府吹田市千里丘32-3 佐々木賢一気付 〒560
 - ・電 話 06-875-5488
 - ・支部長 福田 廣 (27M)
 - ・幹事長 菅 光夫 (32E)

東京秋工会会報
KANASA
金砂



VOL.4

1996年10月1日発行

| | |
|---------|---|
| 発行 | 東京秋工会本部・事務局 東京都港区虎ノ門1-18-1 第10森ビル8F 澤木萬國特許事務所内 電話：03-3501-0937 |
| 発行責任者 | 澤木 誠一 (東京秋工会会長／26E) |
| 編集・制作 | 東京秋工会会報制作室・第2事務局 東京都渋谷区鶯谷町7-7 O.Hビル301 (有)ティーピーオー内 電話：03-5489-5024 |
| 制作管理責任者 | 三平 俊悦 (東京秋工会幹事長／39A) |
| 編集・制作担当 | 松木 一美 (東京秋工会副幹事長／48M) |
